

プリムターンファースト2.5EG プリムターンファースト2.5S



型式認定番号

自C-196

品質保証書付

- お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。
- 本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。(P10参照)
- チャイルドシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡してください。
- 安全運転を励行してください。
- 裏表紙の品質保証書の欄に必要事項をご記入ください。
- ロッキングクリップがあることを確認してください。



この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

もくじ

■お使いいただく前に	1
安全にお使いいただくために	3
各部のなまえ	9
■車に取り付ける前に	12
お子さまの座らせかた	13
バックルのとめかた	14
肩ベルト通し穴の位置の決めかた	15
幼児用ベルトの長さ調節のしかた	17
座席の回転のしかた	18
リクライニングの使いかた	19
インナークッションの使いかた	20
インナーシートの取り扱いかた	21
ヘッドパッドの取り付けかた	22
取り付け角度コントロールシステムの使いかた	23
■車への取り付けかた	25
シートベルトの種類と取り付け上の注意点	26
取り付けの準備	27
3点式シートベルトの座席への取り付けかた	29
2点式シートベルトの座席への取り付けかた	33
取り付け時完了チェックのしかた	35
■お手入れのしかた	36
■製品仕様	40
■こんなときには	41
幼児用ベルトがロックしたときの解除方法	41
より確実に固定する方法	41
角度チェッカーが「危険」をさしているときには	42
車のバックルが、シートベルト通し穴の角に当たる場合	42

お使いいただく前に

このたびは、コンビ チャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に、本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。
またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いください。

- 体重
 - 2.5kg以上～18kg未満のお子さま。
(参考年齢…1カ月未満～4才ころ)
 - 座らせたとき胸あてパッドとあごとの間に、3cm以上のすき間があくこと。
 - 2.5kg～7kg未満のお子さまは、インナークッションを取り付けて使用。(20ページ参照)
- 身長
 - 50cm以上。
 - チャイルドシートに座らせ、後頭部が背もたれから上に出ないお子さま。

取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかりと固定できない場合には使用しないでください。

- シートベルトの付いていない座席。



- ELR付き2点式シートベルトの座席。

● ELR付き2点式シートベルトとは

…腰の左右2点で支えるシートベルトで、通常、ゆっくり引くとベルトを自由に出し入れでき、急ブレーキや衝突などの衝撃を感じたときにはベルトが固定します。
(ELR：緊急ロック式ベルト巻き取り装置)



- シートベルトが座席の中間から出ている座席。

…チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

●パッシブシートベルトとは

…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。(オートマチックシートベルト)



●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



●エアバッグ装備の座席。

前向き、後向きともに取り付けできません。

…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



●座席の奥行きが43cm未満の場合。



●座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



●バケットシート。

…座面の中央が深くへこんでいる座席。



●シートベルトの取り付け幅※が40cm以下の場合。

※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。



チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

安全にお使いいただくために

お使いいただく前に

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

- 使用条件に**適合しないお子さま・座席**などでは、使用しないでください。



- 前向き取り付け時には**角度アジャスターを収納**してください。また、後向き取り付け時には、**必ず角度アジャスターで角度を調節**してください。(23ページ参照)



前向き取り付け時



後向き取り付け時

⚠ 危険

- 車に取り付けるときは、必ず**車のシートベルトで固定**してください。
ひもなど、シートベルト以外のもの
で固定しないでください。



- エアバッグが装着**された座席では、
チャイルドシートを**使用しないでく
ださい**。衝突時、エアバッグの作動
により大きな衝撃を受け、危険で
す。



…サイドエアバッグのみの場合には使用
できます。

- 車のシートベルトおよび座席の種類
などにより、**取扱説明書どおり**に
チャイルドシートをしっかりと固定で
きないときは、他の座席に取り付け
てください。



- チャイルドシートの座席部を**横向き
にしたまま走行**しないでください。
(お子さまの乗せ降ろしの際のみ使
用してください)



- お子さまがチャイルドシートの上に
**立ったり、中腰になったり、正座を
しない**ように注意してください。
座らせたときには、**胸あてパッド、
幼児用ベルト**が正しく装着され、左
右の**差し込み金具**がしっかりバック
ルに差し込まれ、**表示が緑色に変
わっている**ことを確認してくださ
い。



⚠ 警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

- 幼児用ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。



- 幼児用ベルトは正しい長さに調節してください。(17ページ参照)

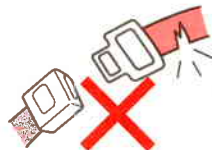
- 7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。



- 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。



- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。



- 幼児用ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、弊社のお客様相談室にお問い合わせください。



警告

- お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差し込み金具がバックルからはずれていないことを確認してください。

はずれていると本来の働きをせず、さらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。



- お子さまを車内に1人で放置しないでください。

日ざしの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。



次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

- お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



- 車の前座席に、チャイルドシートを後向きに取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



- シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。



- 2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



安全にお使いいただくために

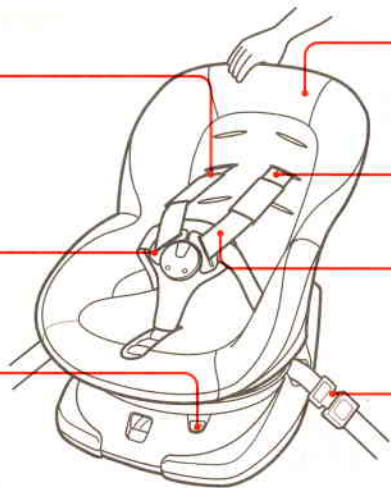
⚠ 警告

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

幼児用ベルトが幼児用肩ベルト通し穴の正しい位置にセットされていること

差し込み金具がしっかりとバックルに差し込まれ、表示が緑に変わっていること

座席回転装置のロックがしっかりとかかっていること
(座席部を回して確認してください)
※ボタンの下に赤色が見えているときは、ロックがかかっていません。



チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること
(本体を前後にゆすり、確認してください)

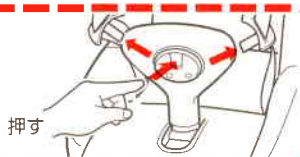
幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

幼児用ベルトのロックがしっかりとかかっていること (幼児用ベルトを勢いよく引いて、確認してください)

シートベルトの差し込み金具が「カチッ」と音がするまでバックルにしっかりと差し込まれていること

緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸あてパッドのバックルボタンを押し、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。



⚠ 注意

- チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差し込み金具などが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。お子さまを座らせる前に各部にさわって、やけどをしないことを確認してください。またお子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでください。



- 走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。



- チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この取扱説明書に記載されている使いかたで使用してください。



- チャイルドシートを車の座席の可動部やドアに挟まないように、十分注意してください。



- チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



- 車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けしないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。



- ロックングクリップをチャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。

- チャイルドシートを風雨にさらさないでください。

- シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。（安全性能に影響を与えるおそれがあります）



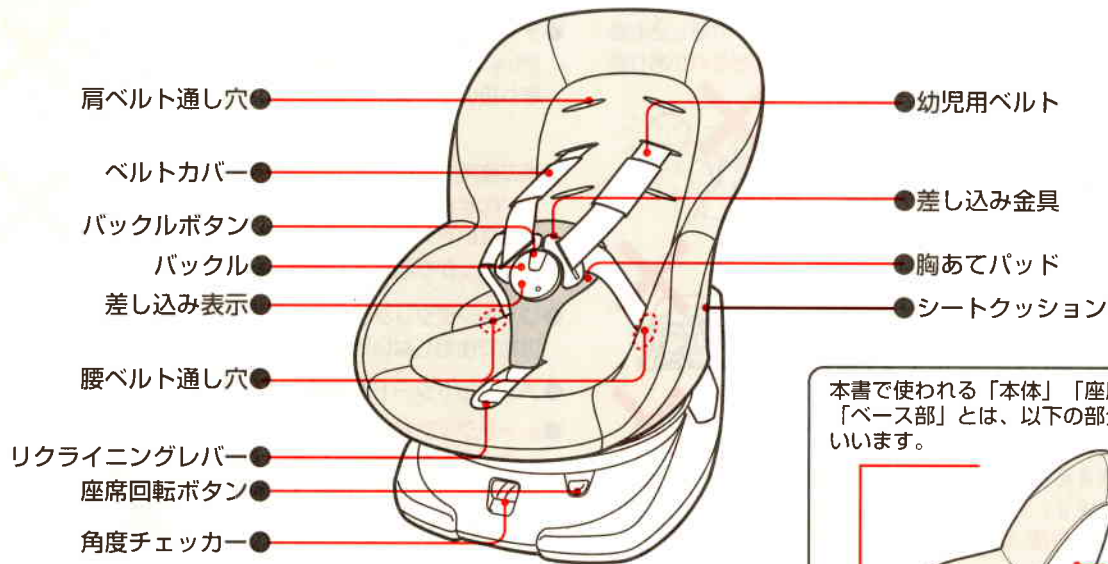
- 固定されていないものを車内に放置しないでください。（急ブレーキや衝突の際にお子さまなどにあたる可能性があります）



各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

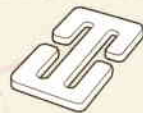
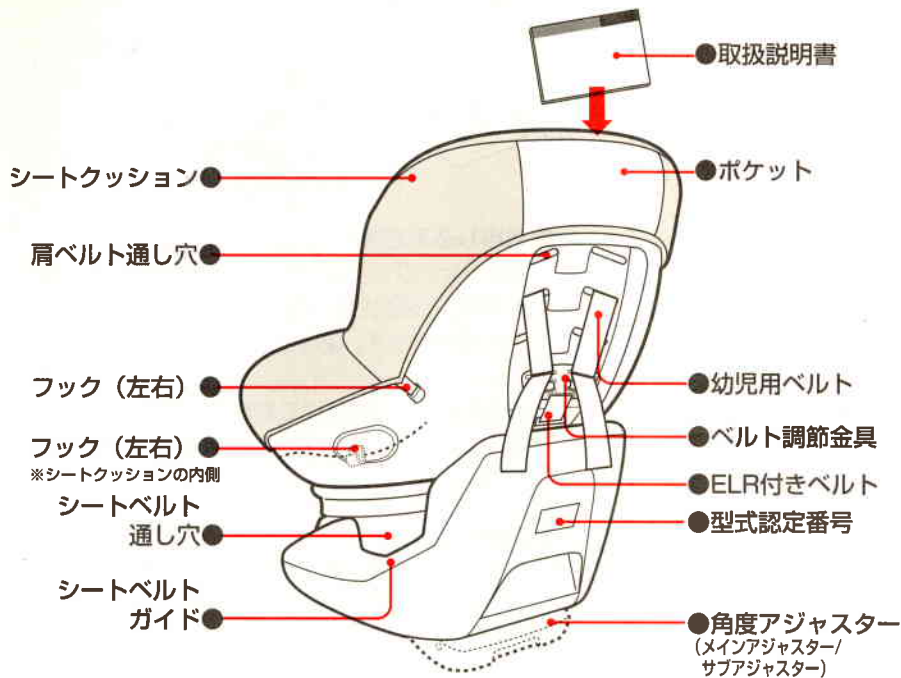
正面



本書で使われる「本体」「座席部」「ベース部」とは、以下の部分を行います。



背面・側面



●ロッキングクリップ

(EG/Sタイプ共通)

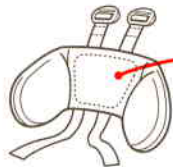
ロッキングクリップは、チャイルドシートを固定するために使う重要部品です。(使いかたは、31ページをご覧ください)

使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

各部のなまえ

お使いいただく前に

●ヘッドパッド



●エッグショックパッド (EGタイプのみ)



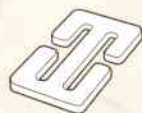
●インナークッション



●インナーシート (EGタイプのみ)



ロックングクリップ (EG/Sタイプ共通)



ロックングクリップを紛失された場合は、店頭にてお買い求めいただけます。また、下記の方法で有料にてお求めいただけます。

ロックングクリップ (No.30323710)

●お申し込み先

コンビ コンシューマープラザ

部品販売(相談)受付窓口

TEL: 048-797-1001

FAX: 048-798-6109

電話受付時間: 10:00~17:00

(日・祝日・年末年始除く)

●ホームページでのご案内

http://www.combi.co.jp/soudan/faq_baby.htm

車に取り付ける前に

ここでは、お子さまの体重による取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。また、お子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児用ベルトの長さ、肩ベルトの位置などを調節してください。

お子さまの成長に合わせて、3つの使いかたができます。

体重 2.5kg～7kg まで
(新生児～4カ月ころまで)

体重 7kg～10kg まで
(4カ月ころ～1才ころまで)

体重 9kg～18kg まで
(1才ころ～4才ころまで)

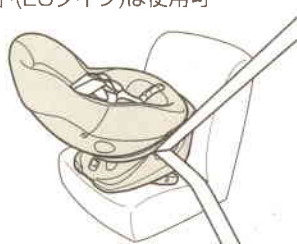
- 後向き使用（前向きでは、絶対使用しないでください）
- 7kgまでのお子さまには、インナークッションを取り付けて使用
- リクライニングを最も倒した状態で使用
- 付属のヘッドパッドは使用しない

- 後向き使用（9kg未満の場合は前向きでは、絶対使用しないでください）
- インナークッションは取りはずして使用
- リクライニング使用可（取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます）
- 付属のヘッドパッド、インナーシート(EGタイプ)は使用可

- 前向き使用
- インナークッションは取りはずして使用
- リクライニング使用可（取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます）
- 付属のヘッドパッド、インナーシート(EGタイプ)は使用可



後向き



後向き



前向き

お子さまの座らせかた

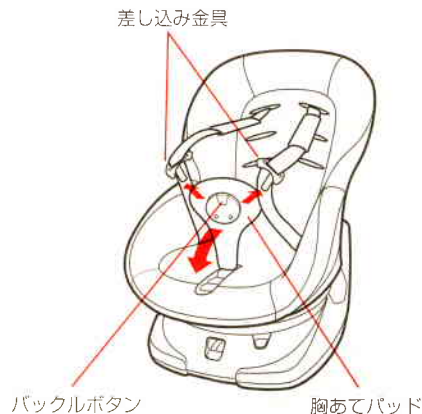
車に取り付けてからは、チャイルドシートを調節できません。取り付け前に、お子さまを座らせ、ベルト通し穴の位置や幼児用ベルトの長さを体に合わせてください。

- 胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。胸あてパッドが破損し、本来の機能を果たさないことがあります。
- 図のような座らせかたは、おやめください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

⚠ 警告



バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを前に倒し、お子さまを座らせます。



バックルのとめかた

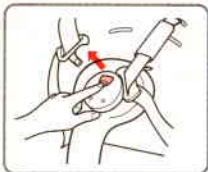
- 1** お子さまを座らせて、左右の腕を幼児用ベルトに通し、差し込み金具をカチッと音がするまでバックルに差し込みます。



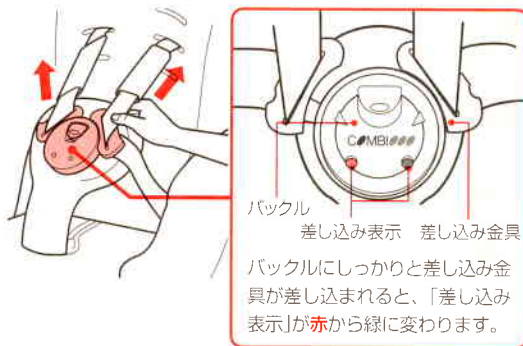
ワンポイント



- バックルボタンを押すと、差し込み金具がはずれます。
- お子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでおいてください。



- 2** 差し込み金具を軽く引き、差し込み表示が**緑色**に変わっていることを確認してください。



⚠
警告

- 左右の差し込み金具が、完全にバックルに差し込まれて表示が緑になっていないと、衝突時にお子さまが飛び出すおそれがあります。
- 差し込み金具が確実に固定されていないと、差し込み金具がはずれ、ベルトが首に巻き付き窒息するなどのおそれがあります。

車に取り付ける前に

肩ベルト通し穴の位置の決めかた

お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児用ベルトの位置を変えてください。(工場出荷時は一番下になっています)

車に取り付ける前に

低月齢のお子さまの場合

体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」については、**特に注意してください。**



危険

- 肩ベルト通し穴の位置と幼児用ベルトの長さが適正かを確認してください。
- 幼児用ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。

※これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまうおそれがあります。

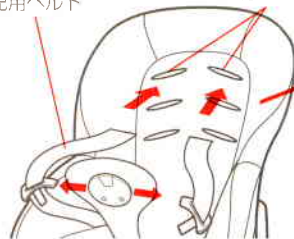


注意

- 1時間以上は連続使用しないでください。

- 1 本体裏側のベルト調節金具から幼児用ベルトを引き抜き、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直します。

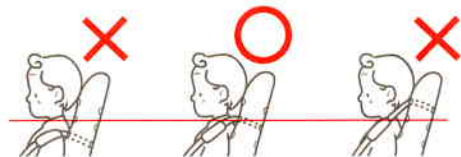
幼児用ベルト 肩ベルト通し穴



- 幼児用ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

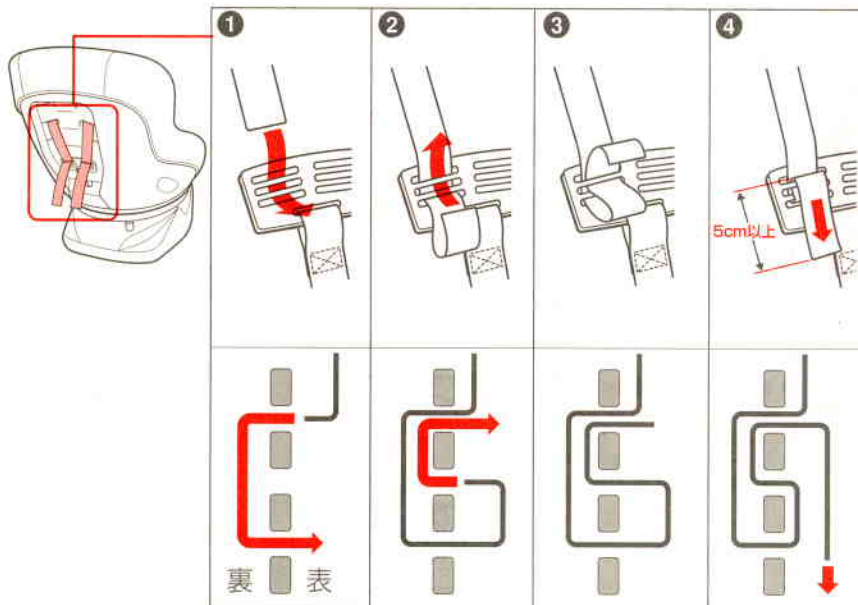


警告





2 ①～④の手順で、背面の幼児用ベルトをベルト調節金具に取り付けます。

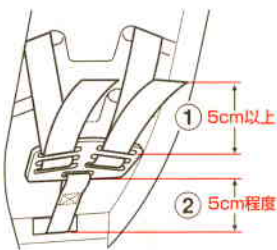


- 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
- 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

幼児用ベルトの長さ調節のしかた

お子さまの体に合わせて、座らせた状態で幼児用ベルトがフィットするように長さを調節します。

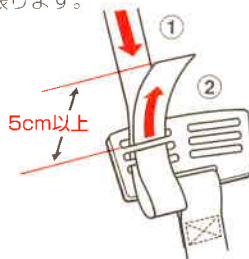
- 幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれるのを防ぐため、図①に示すように必ず幼児用ベルトを5cm以上余らせてください。



- 図②のようにベルト調節金具を5cm程度引き出した位置でセットしてください。
- 幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

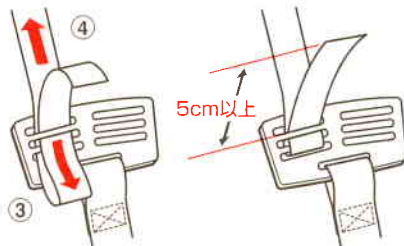
幼児用ベルトを短くするには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、たるみをもたせて、②の方向に引っ張ります。



幼児用ベルトを長くするには

矢印③の方向に幼児用ベルトを引き、④の方向に引っ張ります。



- お子さまと幼児用ベルトの間に、**大人の手のひらが入ります**が、きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児用ベルトの長さを調節してください。

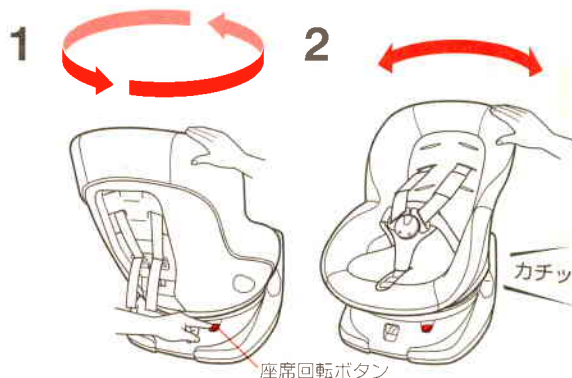


座席の回転のしかた

1 座席回転ボタンを押しながら、チャイルドシートの座席部を回します。(少し動いたら、ボタンから指を離してください)

2 「カチッ」と音がしてロックがかかります。(前向き、後向きとも)

ボタンの下の赤い色が見えていないことを確かめ、さらに本体を左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。



ワンポイント



● 横向きにした場合、ロックはかかりません。

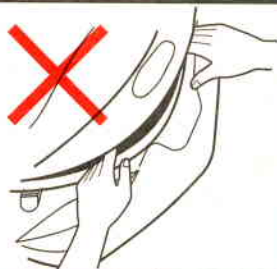
⚠
危険

● チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。



⚠
注意

● 座席の背部や下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作しないでください。



車に取り付ける前に

リクライニングの使いかた

お子さまが寝たときなどのために、車のシートベルトをゆるめずにチャイルドシートを寝かせることができます。

車に取り付ける前に

- 1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを図の1の矢印のように手前に引きながら上に持ち上げ、リクライニングの角度を調節します。
- 2 レバーから指を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされているかを確認してください。



注意

- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。
- 必ず両手で操作してください。

ワンポイント



- 取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1～2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。
- 車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。

インナークッションの使いかた(7kgまでのお子さまには)

次ページに続く

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、必ずインナークッションをお使いください。また、7kg以上になりましたら取りはずしてください。

⚠
危険

- インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。
- インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。
- ヘッドパッドおよびインナーシート(EGタイプのみ)との併用はできません。必ず取りはずしてください。

⚠
注意

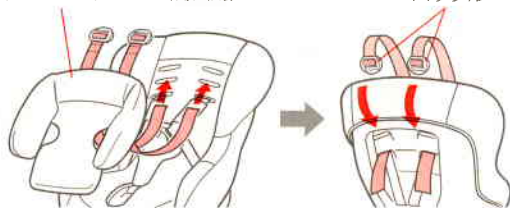
- はずしたインナークッションを車内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

1 インナークッション(背面用)のベルトを肩ベルト
通し穴に通し、バックルを上から回し込みます。

2 ベルトを図のようにバックルに通し、インナー
クッション(背面用)を取り付けます。

インナークッション(背面用)

バックル



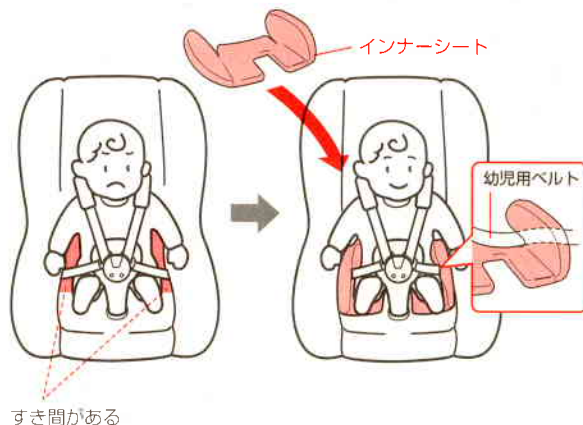
車に取り付ける前に
7kgまでのお子さまには

インナーシートは、EGタイプのための付属品です。

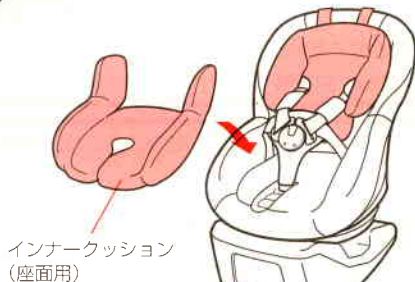


- インナークッションとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

お子さまをチャイルドシートに座らせたとき、腰の両側にすき間ができる場合には、インナーシートを座面に敷いて使用してください。



3 インナークッション(座面用)を取り付けます。



4 お子さまに合わせて、各部の調整をします。

ワンポイント



- 「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」(15ページ参照)、「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」(17ページ参照)をご覧ください。

ヘッドパッドの取り付けかた



危険

- インナークッションとの併用はできません。必ず取りはずしてください。

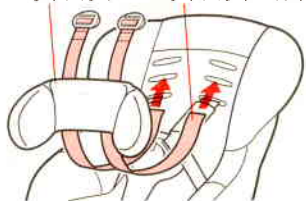


注意

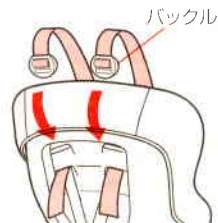
- はずしたヘッドパッドを車室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、ヘッドパッドを持たないでください。

- 1 ヘッドパッドベルトを、幼児用ベルトを通して
いる肩ベルト通し穴と同じ穴に通します。

ヘッドパッド ヘッドパッドベルト



- 2 ヘッドパッドベルトのバックルを、上から回してみます。



- 3 ヘッドパッドベルトを図のように通して、ヘッドパッドの位置がずれないように締め付けます。



取り付け角度コントロールシステムの使いかた(後向き時専用)

車の座面角度は、車種によってさまざまです。このためチャイルドシートの角度が不適切になる場合があります。このような場合には、「取り付け角度コントロールシステム」を使い、**最適な角度で取り付けてください**。取り付け角度コントロールシステムは、**後向き取り付け時の角度を調節する「角度アジャスター」と角度を確認できる「角度チェッカー」**のことで、車の座席にチャイルドシートを置いて適切な取り付け角度を確認することができます。

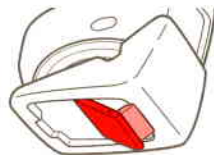
危険

- 角度アジャスターは、後向きで使用してください。取り付け時には角度チェッカーでお子さまの体重と表示がっていることを確かめてください。
- 角度チェッカーがお子さまの体重と異なる範囲をさしている場合は、必ず角度アジャスターで適切な取り付け角度に調節してから使用してください。また、赤色の部分をさしている状態では、絶対に使用しないでください。
- 前向きで使用するときは、必ず角度アジャスターを収納してください。

車の座面角度がきつい場合には



角度チェッカーと角度アジャスターで調節して



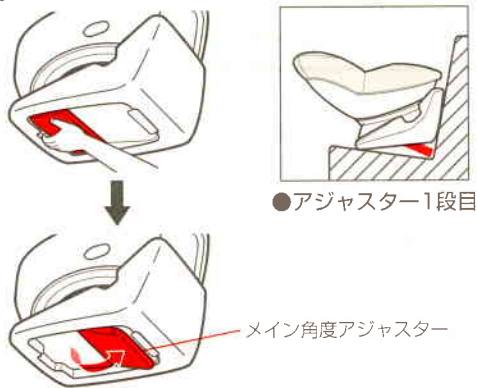
適切な角度に取り付けます



● 車の座面角度がゆるい場合も、角度チェッカーが「危険」をさします。42ページを参照のうえ、調節してください。

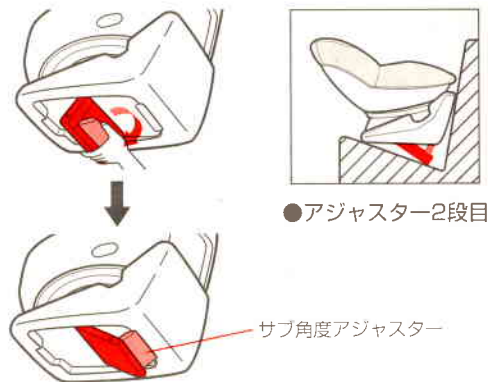
1 車を**平らな場所に駐車してください。**
※坂道などで取り付けると、取り付け角度の正確なチェックができません。

2 角度チェッカーの表示がまだお子さまの体重と合わない場合は、ベース底面の**メイン角度アジャスター**を引き出し、もう1度、車の座席に置きます。



3 角度チェッカーの表示がまだお子さまの体重と合わない場合は、さらに**サブ角度アジャスター**を引き出します。

※サブアジャスターに付いているベルトは誤使用(サブアジャスターのみの使用)を防ぐためのものです。



● 角度アジャスターを操作するときは、指をはさまないように注意してください。

車に取り付ける前に
2.5 kg ~ 10 kgのお子さまには

車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、車への取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページをご覧ください。

⚠ 危険

- チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能をはたさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のものでも固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま、走行しないでください。

⚠ 警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで固定してください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。

ワンポイント



- 車のシートベルトに巻き取り装置が付いている場合には、ベルトを全部引き出し、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどではさみ、引き込まれないようにすると、取り付け作業が楽になります。

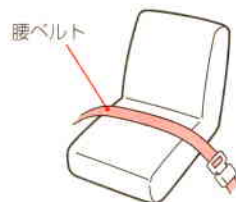
シートベルトの種類と取り付け上の注意点

チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けられない場合や、取り付け時にロックングクリップが必要な場合があります。下表をご覧ください。ご使用の車のシートベルトの種類をご確認ください。下表ではわからない場合には、車の取扱説明書をご覧ください。

車のシートベルトの種類 (シートベルトの方式)	特徴 (見分け方)		取り付け時の注意点
ELR付き シートベルト (緊急ロック式ベルト 巻き取り装置付き)	ゆっくり引くと自由 に出入りし、勢 いよく引くとロッ クする。	3点式	ロックングクリップを 必ず使用。
		2点式	取り付けできません。
チャイルドシート固 定機能付きベルト (AELR付きシートベ ルト)	ベルトを全て引き 出した後で巻き戻 すと自動的に締め まり、それ以上伸び なくなる。(ベルト を全て巻き戻すと 解除される)	3点式 2点式共通	ロックングクリップ不 要。ただし、安定し ない場合はロックン グクリップを使用。
マニュアル式 シートベルト	巻き取り装置の付 いていないシート ベルト。	3点式 2点式共通	ベルトの長さを調節し 固定する。ただし、安 定しない場合はロック ングクリップを使用。
NLR付き シートベルト	ロック機能のない 巻き取り装置付き シートベルト。	3点式 2点式共通	
ALR付き シートベルト	ベルトを引き出す途 中で止めるとロッ クされ、それ以上引 き出せなくなる。	3点式 2点式共通	必要な長さを引き出 して固定する。ロッ クングクリップ不要。

2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。



3点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトと肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



取り付けの準備

車へ取り付ける前にお子さまに合わせて、使いかたを選んでください

1 体重2.5kg～7kg未満の場合

その他の条件

1. 後頭部がインナークッションから出ないこと
2. 座らせたとき、胸あてパッドとあごとの間に、3cm以上のすき間があくこと

参考月齢：新生児～4カ月ころ（首がすわるころ）まで

使いかた

1. 進行方向に対して後向き
(取り付けは前向きで行い、その後回転させてください)
2. リクライニングをもっとも倒す
3. 付属のインナークッションを必ず使用
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用禁止
5. 角度コントロールシステムで取り付け角度を調節

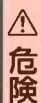


2 体重7kg～10kg未満の場合

その他の条件

1. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

参考月齢：4カ月ころ（首がすわるころ）～1才ころまで



危険

- すき間が3cm以下の場合、使用中に胸あてパッドがのどや口を圧迫するおそれがあります。

使いかた

1. 進行方向に対して後向き
(取り付けは前向きで行い、その後回転させてください)
2. リクライニングは3段階使用可能
(取り付け時は、一番立てた状態で行ってください)
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用可能
5. 角度コントロールシステムで取り付け角度を調節



3

体重9kg～18kg未満の場合

その他の条件

1. 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

参考年齢：1才ころ～4才ころまで

※ 9kg未満のお子さまは必ず後向きに取り付けてください。
9kg～10kgのお子さまは、後向き前向きどちらでもお使いいただけます。

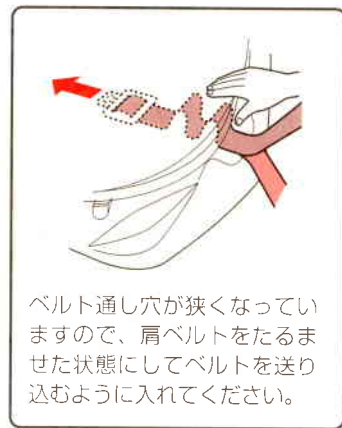
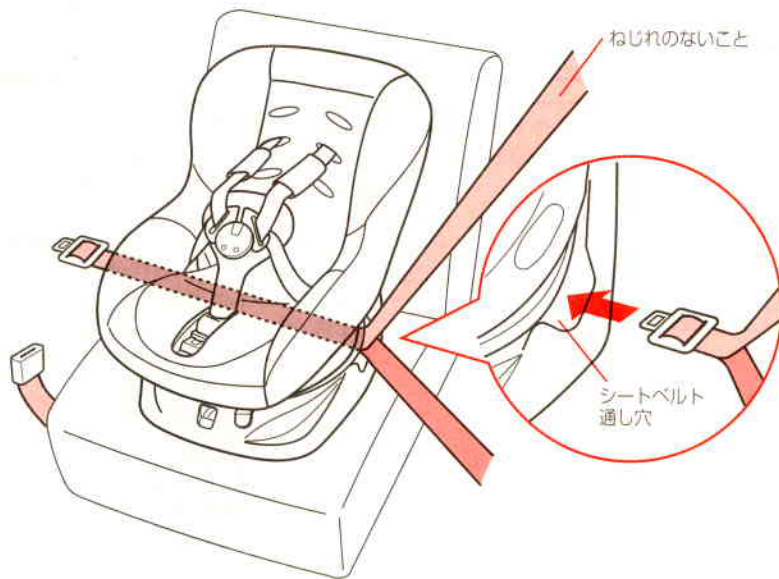
使いかた

1. 進行方向に対して前向き
2. リクライニングは3段階使用可能
(取り付け時は、一番立てた状態で行ってください)
3. インナークッションは使用禁止
4. 付属のヘッドパッド、インナーシートは使用可能
5. 角度アジャスターは収納



3点式シートベルトの座席への取り付けかた

- 1 車のシートベルトをシートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側のシートベルト通し穴から引き出します。

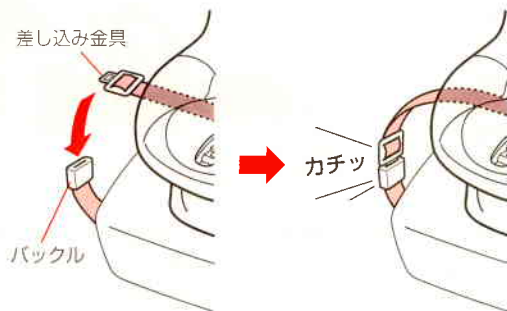


- 手を奥まで入れないでください。

(取り付けはお子さまの体重に関係なく、リクライニングを一番立てた状態で、前向きで行ってください。その後、体重に応じて回転やリクライニングを使用してください。9kg未満のお子さまは必ず後向きにしてください。)

次ページに続く

2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。

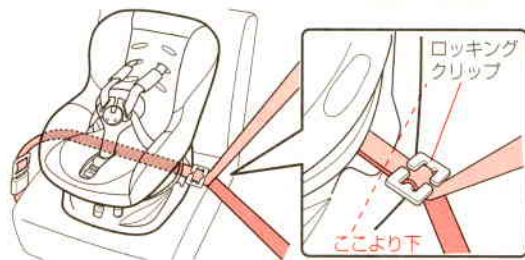


ベース部の底面と背面をしっかりと座席につけ、チャイルドシートに体重をかけて押しつけ、肩ベルトを引いてください。

※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と座席の間にはさまないように注意してください。

3 車のシートベルトの種類により(26ページ参照)、**ロックングクリップ**を取り付けます。(ロックングクリップの取り付けかたは、31ページをご覧ください)

※シートベルト通し穴より下に取り付けてください。



4 最後に「**取り付け時の完了チェックのしかた**」(35ページ)をお読みにになり、しっかりと固定しているかを確認してください。

ワンポイント



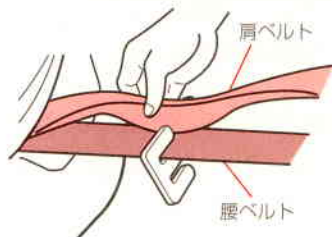
取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。

取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は41～42ページをご覧ください。

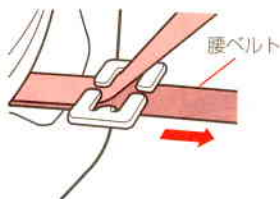
車への取り付けかた

3点式シートベルトの座席への取り付けかた

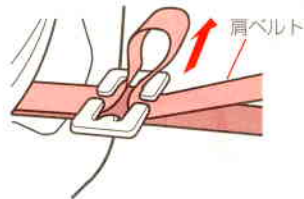
ロックングクリップの取り付けかた A



- ① 車のシートベルトを、腰ベルト、肩ベルトの順に、2つ折りにして、ロックングクリップの溝に入れます。

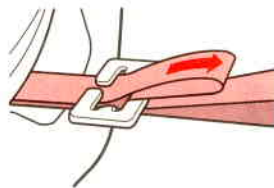


- ② 腰ベルトを、ベルトクリップのもう1つの溝に入れます。

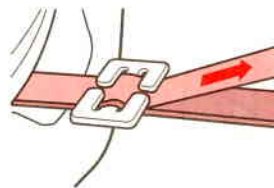


- ③ 肩ベルトも、図のように片手が入るぐらいの輪ができるようにして、もう1つの溝に入れます。

体重をかける



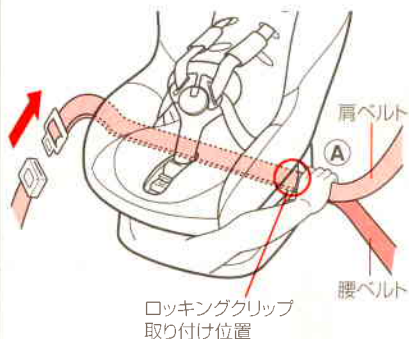
- ④ しっかり固定させるため、チャイルドシートの上から体重をかけて押さえ、肩ベルトの輪の部分を下方向に引きシートベルトを締めます。



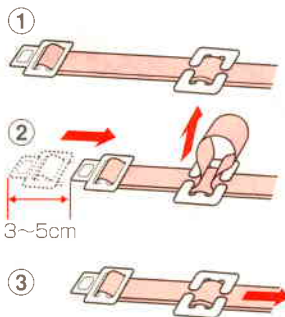
- ⑤ 肩ベルトを引いて、輪のたるみをなくします。

ロックングクリップの取り付けかた B

- 1 車のシートベルトを、ベルト通し穴に通します。
- 2 図の(A)の位置で、2枚のシートベルトを合わせてつかみ、バックルをはずして引き抜きます。(洗濯ばさみなどでシートベルトをはさんでおくと、取り付けが楽になります)



- 3
 - ① 2枚のベルトがずれないように、ロックングクリップを取り付けます。
 - ② 図のように、車の上側のベルトを引いて、ロックングクリップと差し込み金具の間を約3～5cm短くします。
 - ③ ロックングクリップ上のたるみをなくします。



- 4
 - ① 再び、シートベルトをベルト通し穴から送り入れます。
 - ② 上から強く押しつけながら、
 - ③ バックルに差し込み金具を差し込みます。

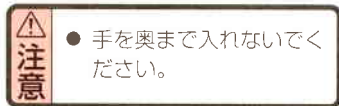
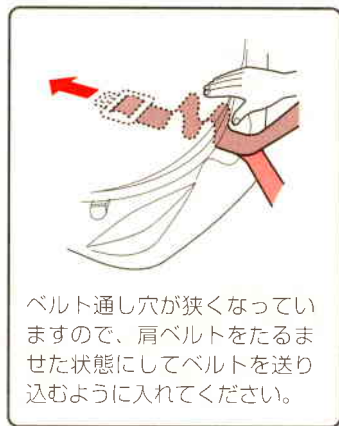
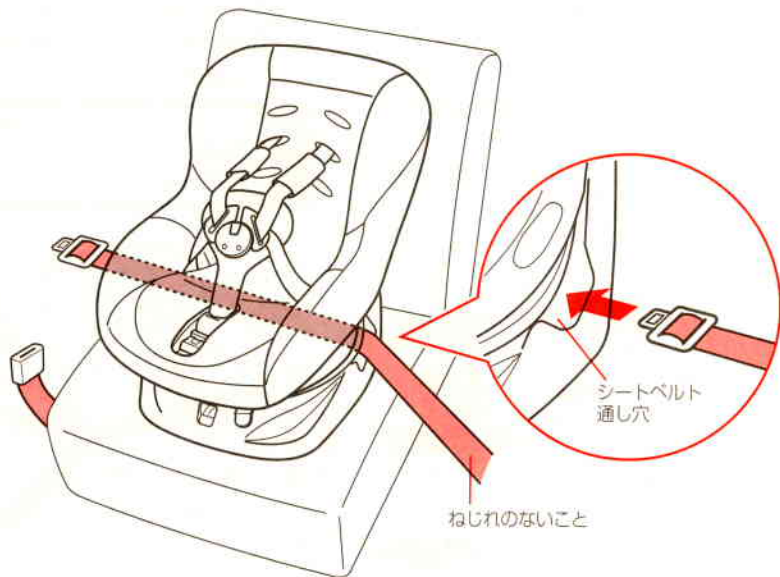


バックルに差し込めない場合は再度ロックングクリップの位置を調節してください。



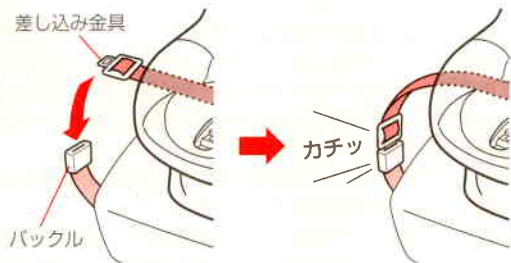
2点式シートベルトの座席への取り付けかた

- 1 車のシートベルトをシートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側のシートベルト通し穴から引き出します。



(取り付けはお子さまの体重に関係なく、リクライニングを一番立てた状態で、前向きで行ってください。
その後、体重に応じて回転やリクライニングを使用してください。9kg未満のお子さまは必ず後向きにしてください。)

2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。



3 最後に「取り付け時の取り付け完了チェックのしかた」(35ページ)をお読みにになり、しっかり固定しているかを確認してください。

ワンポイント



- 取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。
- マニュアル式シートベルトがゆるむ場合には、シートベルトの2枚重なる部分にロックングクリップを取り付けてください。(31～32ページ参照)

取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は41～42ページをご覧ください。

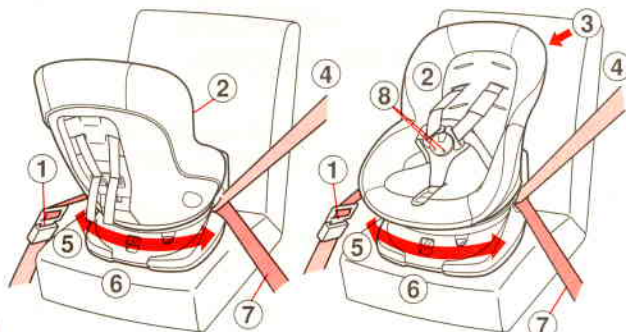


ベース部の底面と背面をしっかり座席につけ、チャイルドシートに体重をかけて押しつけ、腰ベルトを引いてください。

※幼児用ベルトのあまりを、ベース部と座席の間にはさまないように注意してください。

取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



後向き

前向き



- これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合はロッキングクリップで車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。



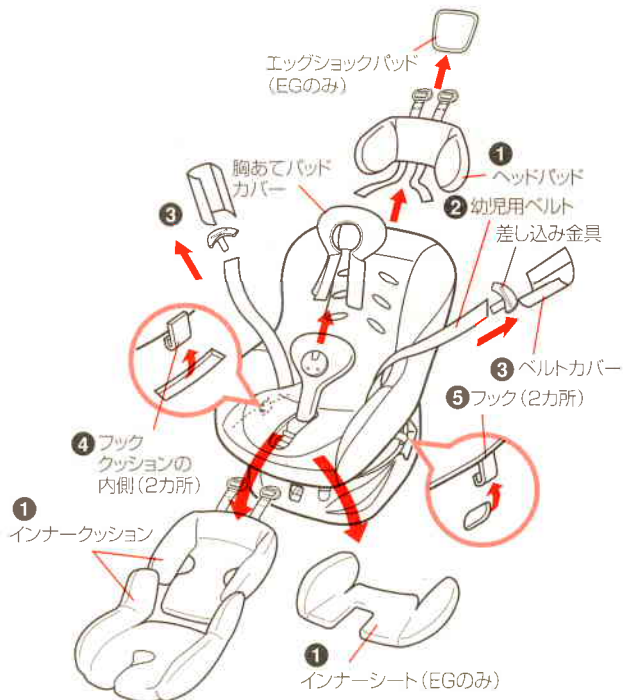
- ① 車のシートベルトの差し込み金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ② お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッションを取り付けてあること。7kg以上は取り外してあること。
- ③ 車の背もたれとチャイルドシートの背もたれが接している部分に、握りこぶしが入るようなすきまがないこと。
(前向きで確認してください)
ベース部を前後左右にゆすって、ベース部が約3cm以上動かないことを確認してください。
- ④ 取り付け時に、洗濯ばさみなどを使用した場合は、車のシートベルトの巻き取り口付近の洗濯ばさみなどははずしてあること。
- ⑤ チャイルドシートの座席部が、前向きまたは後向きの位置でしっかりとロックされていること。
- ⑥ 後向き時は、角度チェッカーが適切な角度であること。前向き時は、角度アジャスターが収納されていること。
- ⑦ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
※ お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
- ⑧ 差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、差し込み表示が緑色に変わっていること。
- ⑨ 幼児用ベルトを左右いっしょにつかみ、勢いよく引きロックされること。また、手を離し、引き出したベルトが戻ること。

お手入れのしかた

次ページに続く

シートクッションのはずしかた

- ① インナークッションやヘッドパッドなどをはずします。
(20～22ページをご覧ください)
- ② 左右の幼児用ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。
- ③ 幼児用ベルトから差し込み金具とベルトカバーをはずします。胸あてパッドカバーはマジックテープをはがしてはずします。
- ④ チャイルドシートの外側にある2カ所のフックをはずします。
- ⑤ 内側2カ所のフックをはずします。
- ⑥ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。

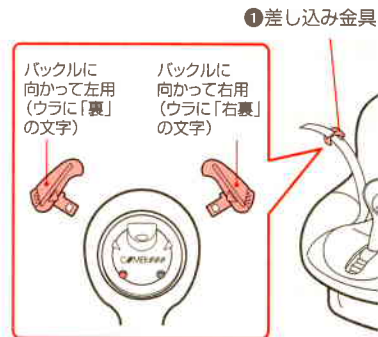


ワンポイント



- 差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。

シートクッションの取り付けかた



1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴から通し、シートクッションを全体にかけ、幼児用ベルトを腰ベルト通し穴から、ねじれないように表側に引き出します。

2 シートクッション内側のフック2カ所と、シートクッション外側のフック2カ所を、それぞれ本体の溝にとめます。

3 **①** 差し込み金具の**左右、表裏を確認して**幼児用ベルトに通し、

②胸あてパッドカバー

③ベルトカバー



幼児用ベルト

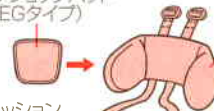


ベルト調節金具 肩ベルト通し穴

- ② 胸あてパッドにベルトカバーをかぶせます。
- ③ 幼児用ベルトにベルトカバーを巻き、マジックテープでとめます。

- 4 幼児用ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」15ページをご覧ください)

エッグショックパッド
(EGタイプ)



ヘッドパッド

インナークッション



インナーシート(EGタイプ)

- 5 7kgまでのお子さまの場合にはインナークッションを固定します。7kg以上のお子さまの場合にはお子さまの体型に合わせてインナーシート(EGタイプのみ)やヘッドパッドをご使用ください。

お手入れのしかた

シートクッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバー、インナークッション、ヘッドパッドの洗いかた

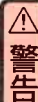
- 洗濯時は次のことを守ってください。
- エッグショックパッドは洗濯できません。必ず抜き取ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。 強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。

※蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



- 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためるおそれがあり危険です。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

●ロッキングクリップ

チャイルドシートを使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに収納して保管してください。

※他のお客さまにチャイルドシートをお譲りになる場合は、取扱説明書とロッキングクリップもあわせてお渡しください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし、風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

製品仕様

ブリムターンファースト2.5EG

商品サイズ：(W)500×(D)520×(H)725mm

商品重量：14.0kg

材質：本体…ポリプロピレン

シートクッション

表生地…ポリエステル

クッション材…ウレタンフォーム

ブリムターンファースト2.5S

商品サイズ：(W)500×(D)520×(H)725mm

商品重量：13.5kg

材質：本体…ポリプロピレン

シートクッション

表生地…ポリエステル

クッション材…ウレタンフォーム

こんなときには

万一、幼児用ベルトがロックしたときの解除方法

●チャイルドシートの前側から

- 1 幼児用ベルトを手前に強く引っ張ります。
- 2 矢印方向にゆっくり戻します。
- 3 もう1度、手前方向に、ゆっくり引き出します。

1 強く引っ張る



3 ゆっくり引っ張る



2 ゆっくり戻す

チャイルドシートを、より確実に固定する方法

●後座席で、後向きに取り付けた場合
車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートの背面に接するようにしてください。より確実に固定できます。



●前座席に、後向きで取り付ける場合
エアバックが装着された座席では、使用できません。また、より安全な後ろ座席への取り付けをおすすめいたします。



ダッシュボードとチャイルドシートの背面が接するように座席をスライドさせてください。より確実に固定できます。

※車種により、ダッシュボードに接しない場合があります。

●スライドできる座席に取り付けた場合
取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。



警告

- エアバックが装着された座席では、前向き、後向きともに使用しないでください。エアバックの作動による衝撃で、危険な状況になります。(装着されているのがサイドエアバックのみの場合には使用できます)

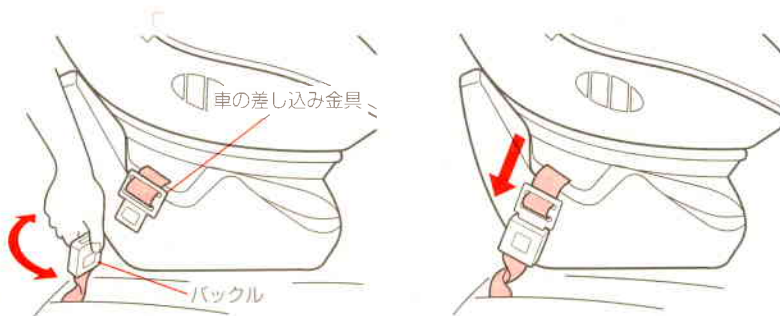
座面の角度が悪く、角度チェッカーが「危険」をさしているときには
(後向きの場合)

極端に座面の角度がゆるい座席では、角度チェッカーが「危険」をさします。この状態ではチャイルドシートが倒れすぎていて、衝突時に本来の機能を果たさず危険です。チャイルドシートのリクライニングを1段起こした状態で使用してください。



車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し穴の角に当たり、不安定な場合

短ベルト(バックルのついている車のシートベルト)がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。



- 1 差し込み金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。
- 2 もう1度差し込み金具をバックルに差し込み、固定します。



- ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

こんなときには